

設立趣旨書

1. 設立の動機・経緯

気候変動や生物多様性の喪失、社会的分断が深刻化するなか、最も影響を受けるのは次世代を担う若者です。しかし、彼らが声をあげ、行動を起こすための場や機会はまだ十分ではありません。私たちはジェーン・グドール博士が創設した環境・人道的プログラム「Roots & Shoots」の理念に共感し、2023年の来日をきっかけに日本で活動を進めてきました。活動を全国に広げ、安定的に継続していくためには法人格を持つ組織が必要と考え、NPO法人 Jane Goodall Institute Japan の設立を決意しました。

2. 社会的課題の現状

気候危機や生態系の破壊により、地球の未来が脅かされています。気候不安が深まるなか、世界各地で戦争や分断が続く、希望を持ち続けることさえ難しくなっています。環境や社会への関心は高まりつつあるものの、あまりに大きな課題を前に、行動へと踏み出すことが難しい状況が続いています。

3. 望ましい状態

一人ひとりが生きとし生けるもの全てに思いやりを持ち、未来への希望を胸に行動できる社会です。その中で若者が主体的にリーダーシップを発揮し、大人も共に学び、世代を超えた協働が生まれることを目指します。小さな行動であっても一人ひとりがもたらす影響を実感し、希望を育み、ウェルビーイングな循環が広がっていくことを願っています。さらに、JGIのグローバルネットワークを活かして異文化理解や交流を深め、連帯し、平和へとつなげていきます。

4. これまでの活動

ユースカンファレンス、上映会、ワークショップ、自然体験活動、広報活動などを実施し、若者が課題を発見し、仲間と解決策を模索する機会をつくってきました。すでに数百名のユースや市民が参加し、各地域で小さなアクションが芽生えています。

5. 今後の取り組み

ユースのアクションを直接支援する事業を軸に、Roots & Shootsの4ステップ「知ってワクワクする・探究する・行動する・祝福する」に基づいたオンラインコースや教育現場でのレクチャーを実施します。また、海や山での自然体験・リトリート事業を通して、人・動物・自然のつながりを体感する機会を提供します。さらに、ニュースレターやSNSなどの広報活動を通じて社会へ発信し、マインドフルネス・ワークショップなどの企業向け研修事業も展開します。これらの収益はユースの活動へ還元します。本法人の活動は、不特定多数の若者、市民、教育関係者、企業人材を対象とし、環境保全や社会的包摂の意識を広げ、公益に寄与します。

6. NPO法人としての意義

法人格がなければ資金調達や助成金申請が難しく、活動は個人に依存しがちです。株式会社や一般社団法人では営利性や会員制に偏りやすく、十分な公益性を担保できません。そこで、公益性と透明性を重視し、持続的に事業を進めるためにNPO法人として設立します。NPO法人は情報公開が義務付けられており、活動や会計を社会に示すことで、公平で信頼性の高い運営を実現できます。こうした仕組みを生かし、より開かれた形で活動を展開していきます。ジェーン・グドール博士の「すべての存在が大切であり、役割があり、そして一人ひとりが変化を生み出すことができる」という言葉を胸に、行動を通して希望を波及していくために活動しています。博士が切り拓いた道の先に、次の一步を刻むのは私たちです。未来へ、そのレガシーをつないでいきます。

2025年9月22日

法人の名称 NPO法人Jane Goodall Insitute Japan
設立代表者 大庭美菜